

目次

凡例  
解説

I 日記

大正七年〔砲術学校長／一月六日、第五戰隊司令官〕……………	二
大正九年〔出仕〔欧米出張〕／八月十日、海軍大学校長〕……………	三
大正十年〔海軍大学校長／九月二十七日、ワシントン会議全権委員首席隨員〕……………	四
大正十一年〔海軍大学校長、ワシントン会議全権委員首席隨員／五月一日、軍令部次長〕……………	五
震災日誌〔軍令部次長／六月一日、第二艦隊司令長官〕……………	六
昭和四年〔軍事參議官／一月二十二日、軍令部長〕……………	七
昭和五年〔軍令部長／六月十一日、軍事參議官〕……………	九
昭和六年〔軍事參議官〕……………	一〇
昭和七年……………	一一
昭和八年……………	一二

昭和九年	二四〇
昭和十年	二六三
昭和十一年	三三九
昭和十二年	三七四
昭和十三年	四三三
昭和十四年	四五七

## II 文 書

一 軍備制限問題対策ノ件（海軍大臣、昭和四年六月二十八日）	四六二
二 幣原と会見（昭和四年十月十一日）	四六四
三 意 見（昭和四年十一月二日）	四六六
四 東郷元帥之御答え（加藤之所要兵力説明ニ付、昭和四年十一月十三日）	四六七
五 会議ニ臨む態度（海軍大臣筆、昭和四年月日不明）	四六八
六 覚（東郷元帥談、昭和五年三月十六日）	四六九
七 御批准賛否（昭和五年）	四七一
八 英米兩國ニ於ケル倫敦条約履行ノ状況（関根軍令部參謀稿、昭和六年七月十日）	四七三
九 五・一五事件ト我海軍主脳部（滝本信夫、昭和八年九月二十日）	四七三
一〇 非常時献言（伊藤利三郎大佐、昭和八年十月十七日）	四七五
一一 次期軍縮対策私見（石川信吾中佐、昭和八年十月二十一日）	四八〇

一二	新疆省独立事変の全貌（高木陸郎、昭和八年十月二十八日）	四九一
一三	中国の実際問題（許世鐸、昭和八年十一月十八日）	五〇〇
一四	ソ連視察報告（布施勝治、昭和九年一月）	五〇九
一五	軍縮対策私見（海軍大将・末次信正、昭和九年六月八日）	五二四
一六	華府条約ノ廃棄通告ハ急ガヌ（東京日日新聞、昭和九年六月九日）	五二七
一七	海軍大臣挨拶（付・加藤軍事参議官の答辭、昭和九年七月十六日）	五二六
一八	岡田総理祝賀会演說草稿（昭和九年七月一日）	五三三
一九	潜水艦廢棄回避ノ私案（南鉄太郎、昭和九年八月八日）	五三四
二〇	在外武官電報（昭和九年八月九日、十日）	五四六
二一	聯合情報（昭和九年九月六日）	五四九
二二	意見書（山下知彦大佐他、昭和九年九月七日）	五五一
二三	「政観」主筆佐々木要人取調狀況ニ関スル件（東京憲兵隊長・持永淺治、昭和九年九月二十日）	五五三
二四	「ワシントン」条約廢止の通告は一日も緩ふす可からず（昭和九年）	五五六
二五	独逸提携ニ関スル意見（山下知彦大佐・藁谷英彦少佐、昭和九年）	五五七
二六	華府条約倫敦条約廢棄後ノ建艦計画（山下知彦大佐・藁谷英彦少佐、昭和九年）	五五九
二七	一九三五年の意義（昭和九年）	五六六
二八	華府条約廢棄通告を即時断行せよ（昭和九年）	五六八
二九	海軍軍縮會議予備交渉代表に与ふる訓令（昭和九年）	五七一
三〇	天皇機関説排撃運動に露呈しつつある二大矛盾を指摘す（昭和十年四月二日）	五七四

三一	序文草稿(昭和十年頃) .....	五七六
三二	拓務省ニ関スル論議ニ就テノ愚見(年代不明) .....	五七七
三三	対米作戦一般的考察(年代不明) .....	五八〇
三四	噫倫敦条約(年代不明) .....	五八二
三五	元老西園寺(年代不明) .....	五九〇
三六	覚(年代不明) .....	五九五

III 書 翰